

第3回 航空機の脱炭素化に向けた新技術官民協議会 議事要旨

日 時：令和6年3月18日（月）10:00～12:00

場 所：オンライン会議

事務局からの資料説明及び構成員からの取組説明後、以下の意見交換がなされた。

○意見交換

- 電動化ではアカデミアがキーになると理解。一方 CMH-17 はアカデミアがほとんどいない。SAF SG の産官学のバランスはどうなっているか。アカデミアの参画状況で標準化が近いのか時間がかかりそうかといったバロメーターになると考えている。
⇒SAF SG の参加者については確認する。
- 金銭的な補助について、現状の WG での議論はどのようになっているか。国内協議団体が設立されると自費参加と言った形は解消されるか。
⇒現状各社自費で参加していると理解。団体からの旅費支援に必要な予算を会費でまかなえるか、プラスアルファの予算が必要かは来年度具体化する中で議論が必要と考えている。また、必要に応じて国からコミットの具体策としてプラスアルファの部分の予算支援ができるかといった視点も議論をしていく必要があると考えている。
- NEDO GI 基金事業では、国際標準化も重要な実施項目であり、国際標準化活動に係る予算については NEDO 支援がある点補足する。
- 他産業との連携について今年度はまだ数は多くない印象。電動化について、モーター関係では自動車の知見を活用する動きが

航空分野にも出てきているが、来年度以降の活動において他産業との連携に向けた具体策はあるか。

⇒他産業の参画について、現状は構成員にまでなっている企業数が少ない。今後、非構成員との連携を進めていきたい。E-40では自動車からの発表も期待されているのでWGを通じて具体的なアイデアを考えて行きたい。

- 標準化活動に係る新しい組織を作ろうとしているところ、それを支える人材の養成が重要。SAEは優れた教育コンテンツを提供していることや、日本航空宇宙学会などのアカデミアとの連携のような視点も入れていただきたい。

⇒人材育成や確保は重要な点であり、活動方針にも記載しているところ。いただいたご意見を踏まえて来年度以降の具体化について検討を進めたい。

- 国家プロジェクトは標準化活動と一体となって進めていただければと思う。

⇒技術開発と並行して標準化活動を進めていくことは本協議会の大目的。引き続き経産省と国交省が連携して、産官学で連携して進めていきたい。

- 若手への魅力発信を行うことで、新しい航空機の開発を目指したいという若い人材が増えていくとよい。

以上